

今週の T2 経済レポート



2019年2月1日号

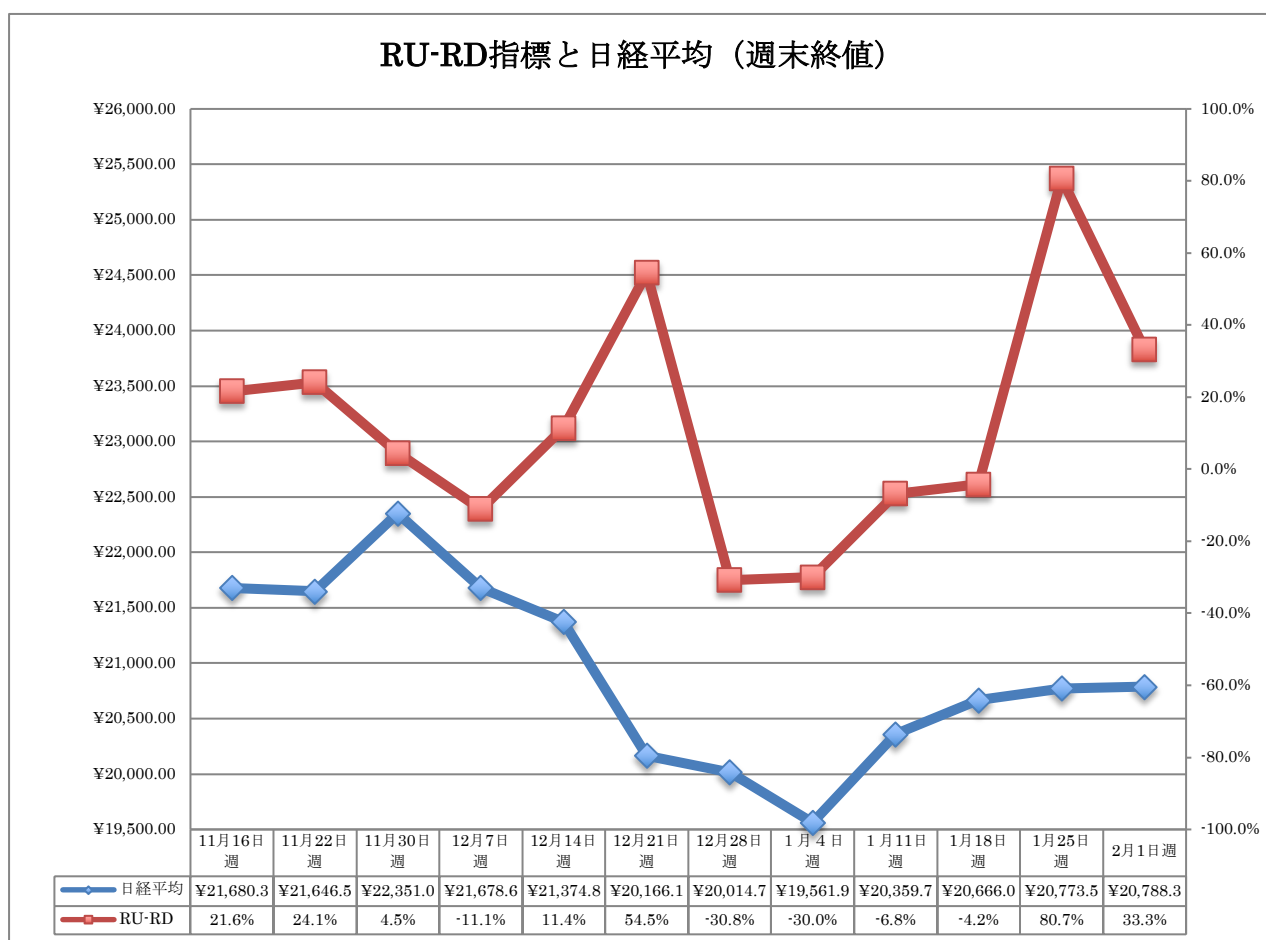
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は強含みの推移が期待できる週が予想されます。今週(1/28~2/1)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月18日週が+33.3%と2週連続でプラス圏で、強含みの推移が期待できます。ただ、来週(2/4~2/8)の相場を占う1月25日週が-3.8%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことで急落調整に注意が必要です。『大台替えと時間の物理学的法則』で、時間切れのかたちが表れてきたことで、昨年12月26日をボトム急反発してきた第一弾の反発は一旦、終了が近づいていることを示唆し始めています。実際、注目してきた日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率は、直近1月4日週が-72.9%と16年2月以来の-70%超の超水準まで下落し底値圏を示していましたが、直近1月18日週+18.6%まで大幅改善、10月5日週以来、15週間振りにプラス転換しています。今後は、高値圏を示す同指標が+40%以上の上限ゾーンまでどのようなかたちで上昇してくるかです。なぜなら、同指標の動きが日経平均の戻りの動きを示すためです。今年のように西暦末尾「9」のつく年、つまり干支でいうと「己(つちのど)」の年は戦後、騰落率は平均+26%上昇、かつ一度もマイナスとなっていないことがないことは今年の相場を考える上で重要なポイントかと思えます。大発会の始値19655円は年末上回る可能性が高く、仮に、過去の平均騰落率では24922円が試算されます。

今週は、経済指標では、国内は30日に12月商業販売統計、31日に12月鉱工業生産、2月1日に12月有効求人倍率・完全失業率、海外では、30日に米1月ADP雇用統計、米10-12月期GDP速報値、31日にユーロ圏10-12月期GDP、中国国家统计局製造業PMI、1日に米1月雇用統計、米1月ISM製造業景況指数などが発表される予定です。30日発表予定の10-12月期国内総生産(GDP)速報値は、前期比年率+2.5%となる見通しで、成長率は4-6月期の+4.2%、7-9月期の+3.4%から徐々に鈍化していますが、市場予想と一致すればドル売りが拡大する可能性は低いとみられます。このほかイベント・トピックスとしては、国内では、28日に12月19日、20日開催の

日銀金融政策決定会合議事要旨、31日に1月22日、23日開催の日銀金融政策決定会合の「主な意見」、海外では、29日にFOMC(30日まで)、英議会のEU離脱代替案採決、30日にパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見、米中閣僚級の貿易協議(31日まで、ワシントン)、などが注目されます。1月29-30日に連邦公開市場委員会(FOMC)では政策金利は据え置きの公算ですが、日本時間31日午前4時にパウエル議長の記者会見が予定されており注目されます。また29日に予定されているトランプ大統領の一般教書演説は政府機関の閉鎖協議次第となって日程は不透明となっています。」とコメントしました。



1月11日週	1月18日週	1月25日週	2月1日週
¥20,359.70	¥20,666.07	¥20,773.56	¥20,788.39
-6.80%	-4.20%	80.70%	33.30%

先週の日経平均は、高値20929円(2月1日)・安値20406円(1月29日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、米国市場で半導体や建設機械メーカーが相次いで慎重な業績見通しを示したことに加え、中国経済減速への警戒感から下値目標値を達成、ただ注目されたFOMCで政策金利を据え置くとともに、これまで年内2回を想定していた追加利上げ見通しを

「様子見」と実質的に一時停止する方針へと転換したこと、首脳会談の開催検討など米中貿易協議が進展との見方が追い風となり、週間ベースでは+15 円高と 4 週連続で反発、4 週間合計で約 1200 円強反発して終了しています(先週予告していた上値メド 21055 円～21476 円(+2%かい離) // 下値メド 20517 円～20106 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、1 月 23 日までに 21000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、残念ながら実現せず時間切れ。21500 円で仕切り直し、逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、12 月 27 日に 20000 円大台替えで仕切り直しが入りました。210000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、19000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、12 月に 20000 円大台替えで仕切り直しが入りました。21000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、19000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、乱高下しやすいかたちになりました。

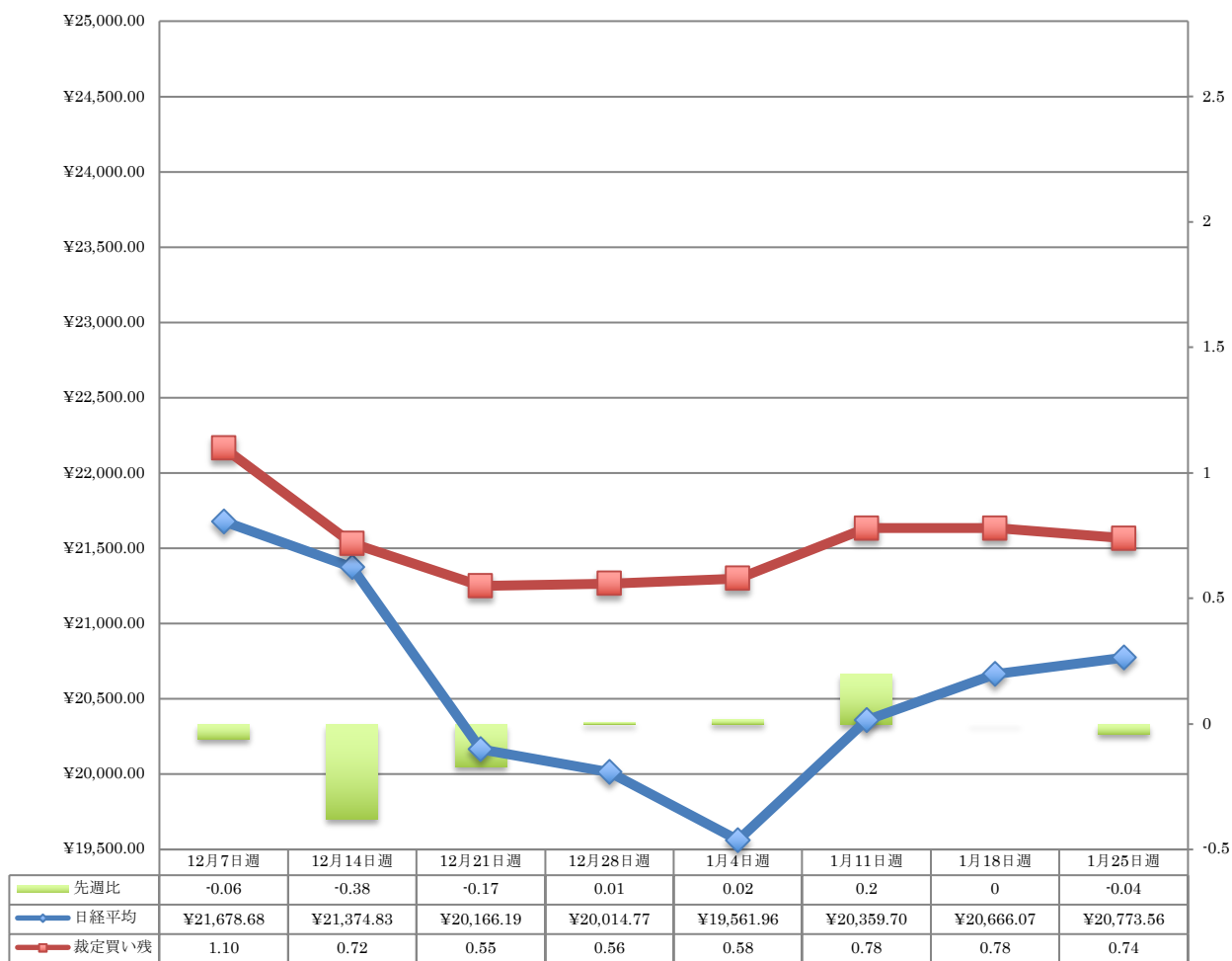
日経平均を左右する NY ダウは、高値 25193 ドル(2 月 1 日)・安値 24323 ドル(1 月 28 日)と推移、6 週連続で前半安・後半高の強いかたち。先週は、週初、下値目標値を達成してスタートしましたが、1 月 29-30 日に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合で政策金利を据え置くことが予想通り決定され、声明文では利上げを休止する可能性があることを示唆、さらにバランスシート縮小についても柔軟な姿勢を表明したこと、また米中貿易協議についてライトハイザー米通商代表部(USTR)代表は「進展があった」との見解を伝えたこと、1 日発表された 1 月米雇用統計で非農業部門雇用者数は市場予想を大幅に上回ったことやその後発表された 1 月の米 ISM 製造業景況指数と 1 月の米ミシガン大学消費者信頼感指数確報値がいずれも市場予想を上回ったことで 12 月初旬以来の 25000 ドル大台を突破、週間ベースでは+326 ドル高と 6 週連続の反発、5 週間合計で約+3000 ドル幅反発して終了しています(先週予告していた上値メド 25302 ドル～25808 ドル(+2%かい離) // 下値メド 24423 ドル～23934 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、1 月 26 日までに 25000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました(猶予で月曜日 28 日まで)が、実現せず時間切れ。25500 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、24000 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、1 月 24 日までに 25000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが残念ながら時間切れ。26000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、23000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、12 月に 23000 ドル大台替えで仕切り直しが入り、1 月に 24000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面入り、さらに 1 月 25000 ドル大台替えでカウントダウン継続に 0 ヶ月、従って、一旦、時間切れとなりました。26000 ドル大台替えで仕切り直し、23000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→となり、方向感がなくなり乱高下しやすいかたちになりました。

一方、為替は、ドル・円が 109.73 円～108.48 円(先週予告していた上値メド 110.64 円～111.74 円(+1%かい離)//下値メド 109.06 円～107.96 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成し4週間振りの円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1515～1.1387(先週予告していた上値メド 1.1403～1.1517(+1%かい離)//下値メド 1.1243～1.1130(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し、3週間振りのドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、125.73 円～124.32 円(先週予告していた上値メド 125.32 円～126.57 円(+1%かい離)//下値メド 123.65 円～122.41 円(-1%かい離))と推移し、上値目標値を達成し前の週と異なり円安・ユーロ高。前の週のドル>円>ユーロからユーロ>円>ドルに変化しています。1月29-30日に開かれた米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合で利上げ休止とバランスシート縮小についても柔軟な姿勢を表明したことでドル独歩安に変化したかたちです。

<裁定買い残>

「裁定買い残」の水準は16年9月以来、2年3ヶ月振りの5000億円台をつけた後、底打ちの兆しが出てきています。3週間前から『先行指標からみてすでに行き過ぎた水準までの減少を示しています。これ以上の減少は難しい局面に入っており、現在の水準が底となって近い将来、一度大きく増加することが予想されます。』と指摘しましたが、その兆しが表れたかたちです。昨年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円台を回復して10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出しました。その後、昨年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円の急減で2月5日週以来。やはり今10月の暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



	1月4日週	1月11日週	1月18日週	1月25日週
日経平均	¥19,561.96	¥20,359.70	¥20,666.07	¥20,773.56
裁定買い残	0.58	0.78	0.78	0.74
先週比	0.02	0.2	0	-0.04

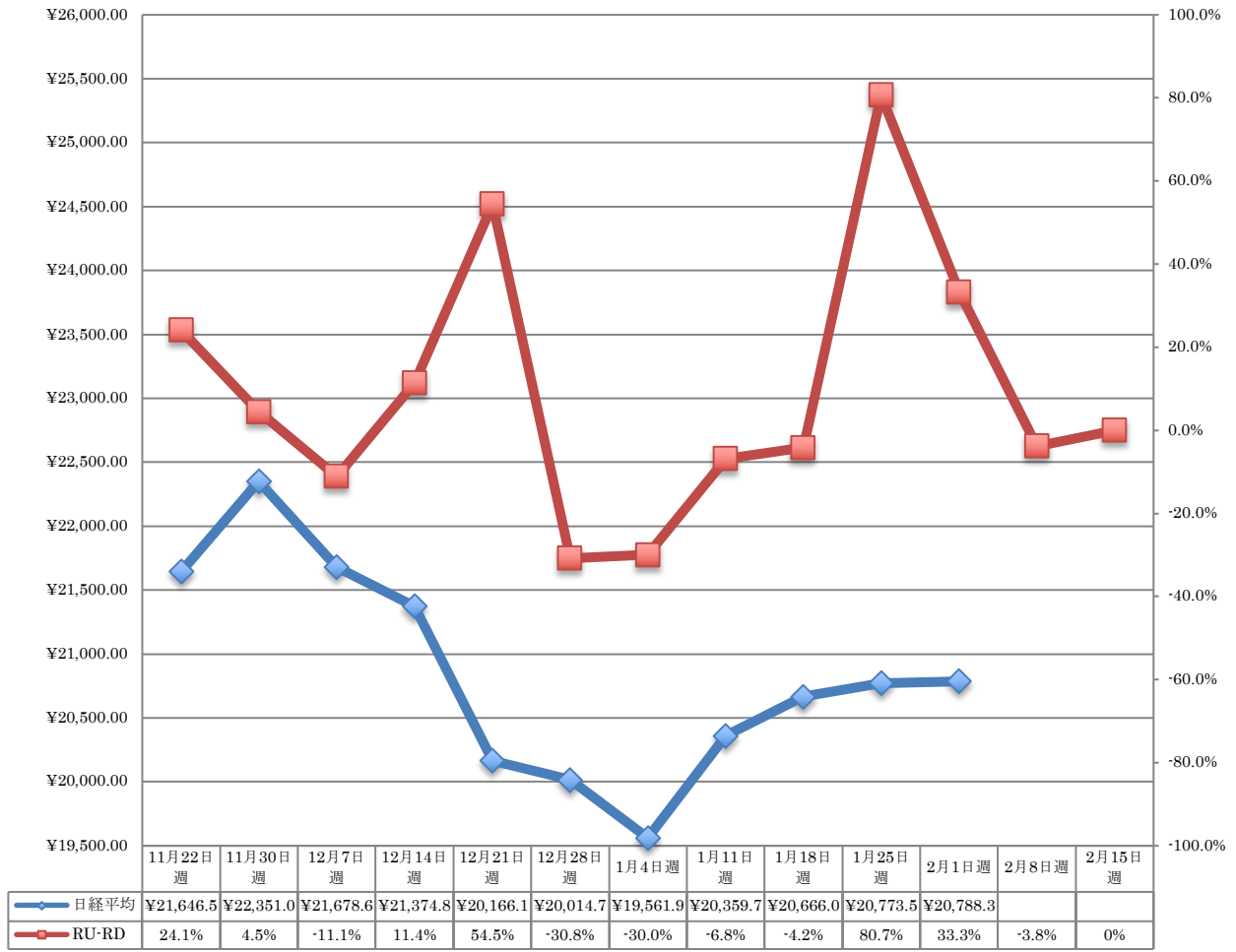
単位:兆円

<今週のマーケットの見通し>

今週は急落調整に必要な週と予想されます。今週(2/4~2/8)の相場を占う『RU-RD 指標』の1月25日週が-3.8%と3週間振りにマイナス圏に陥ったことで急落調整に注意が必要です。『大台替えと時間の物理学的法則』でも時間切れのかたちが表れてきたことで、昨年12月26日をボトム急反発してきた第一弾の反発は一旦、終了が近づいていることを示唆。また、今週末8日にはミニSQを控えることから投機筋の外国人が仕掛けてくることも予想されます。ただ、来週(2/11~2/15)の相場を占う2月1日週が0%とマイナス幅拡大となっていないこと、日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が、直近1月18日週+18.6%→1月25日週+17.1%→2月1日週+22.9%と3週連続でプラス転換、かつプラス幅を拡大していることから、今週、予告通りに急落があれば買いチャンスとなりそうです。今後は、「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が高値圏を示す同指標が+40%以上の上限ゾーンまでどのようなかたちで上昇してくるかが重要になります。なぜなら、同指標の動きが日経平均の戻りの動きを示すためです。今年のように西暦末尾「9」のつく年、つまり干支でいうと「己(つちのと)」の年は戦後、騰落率は平均+26%上昇、かつ一度もマイナスとなっていないことがないことは今年の相場を考える上で重要なポイントかと思えます。大発会の始値19655円は年末上回る可能性が高く、仮に、過去の平均騰落率では24922円が試算されます。

今週は、経済指標では、国内は4日に1月マネタリーベース、8日に12月毎月勤労統計調査、1月景気ウォッチャー調査、海外では、5日に米12月貿易収支、米1月ISM非製造業景況指数が予定されています。4-8日週に発表される予定の10-12月期国内総生産(GDP)速報値は、前期比年率+2.6%と予想。4-6月期は前期比年率+4.2%、7-9月期は同+3.4%と成長率は徐々に鈍化しており、10-12月期の成長率がさらに低下した場合、今年前半の利上げシナリオは大幅に後退します。このほかイベント・トピックスとしては、国内では、8日オプションSQ、海外では、4日に中国春節スタート(10日まで)、4日にドイツ・メルケル首相が訪日(5日まで)、5日に米大統領の一般教書演説、8日は北朝鮮の朝鮮人民軍創建日(建軍節)、がそれぞれ予定されています。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



1月25日週	2月1日週	2月8日週	2月15日週
¥20,773.56	¥20,788.39		
80.70%	33.30%	-3.80%	0.00%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 21015 円～21435 円 (+2%かい離)

下値メド 20544 円～20133 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 25318 ドル～25824 ドル (+2%かい離)

下値メド 24500 ドル～24010 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 110.06 円～111.16 円 (+1%かい離)

下値メド 108.73 円～107.64 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1487～1.1601 (+1%かい離)

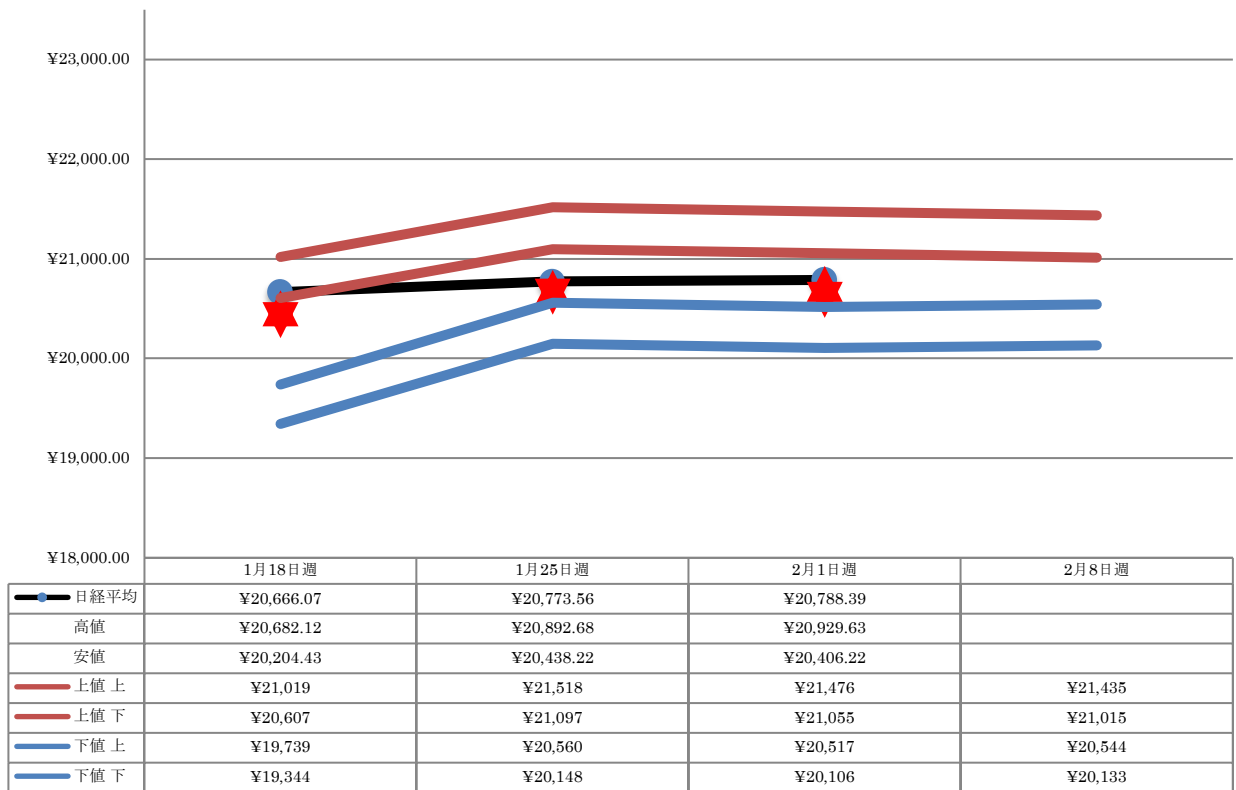
下値メド 1.1349～1.1235 (-1%かい離)

<ユーロ円>

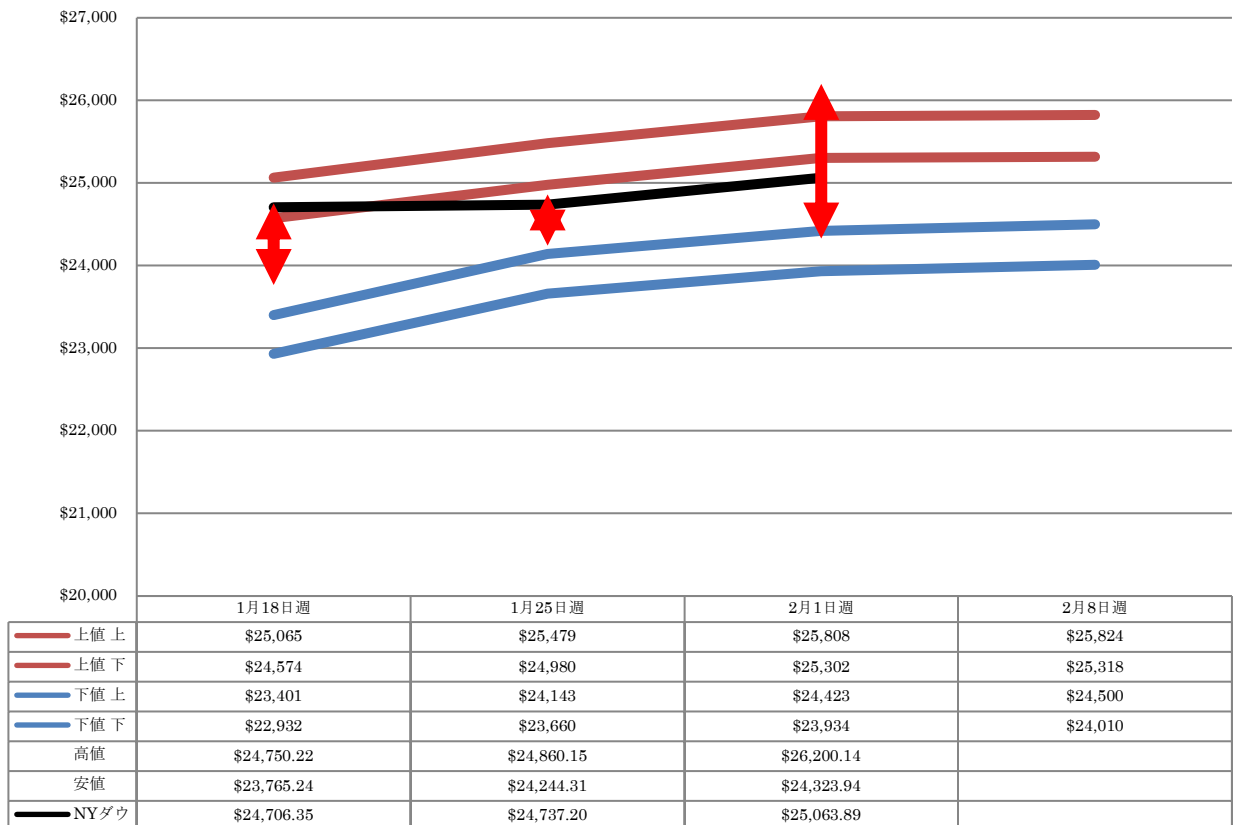
上値メド 126.02 円～127.28 円 (+1%かい離)

下値メド 124.40 円～123.15 円 (-1%かい離)

日経平均



NYダウ



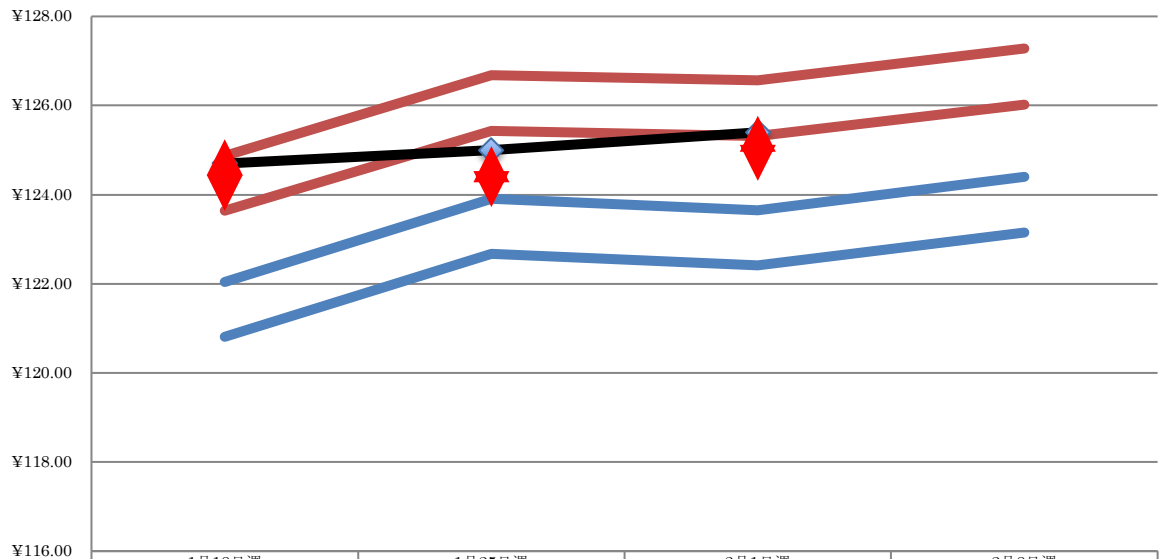
ドル円



ドルユーロ



ユーロ円

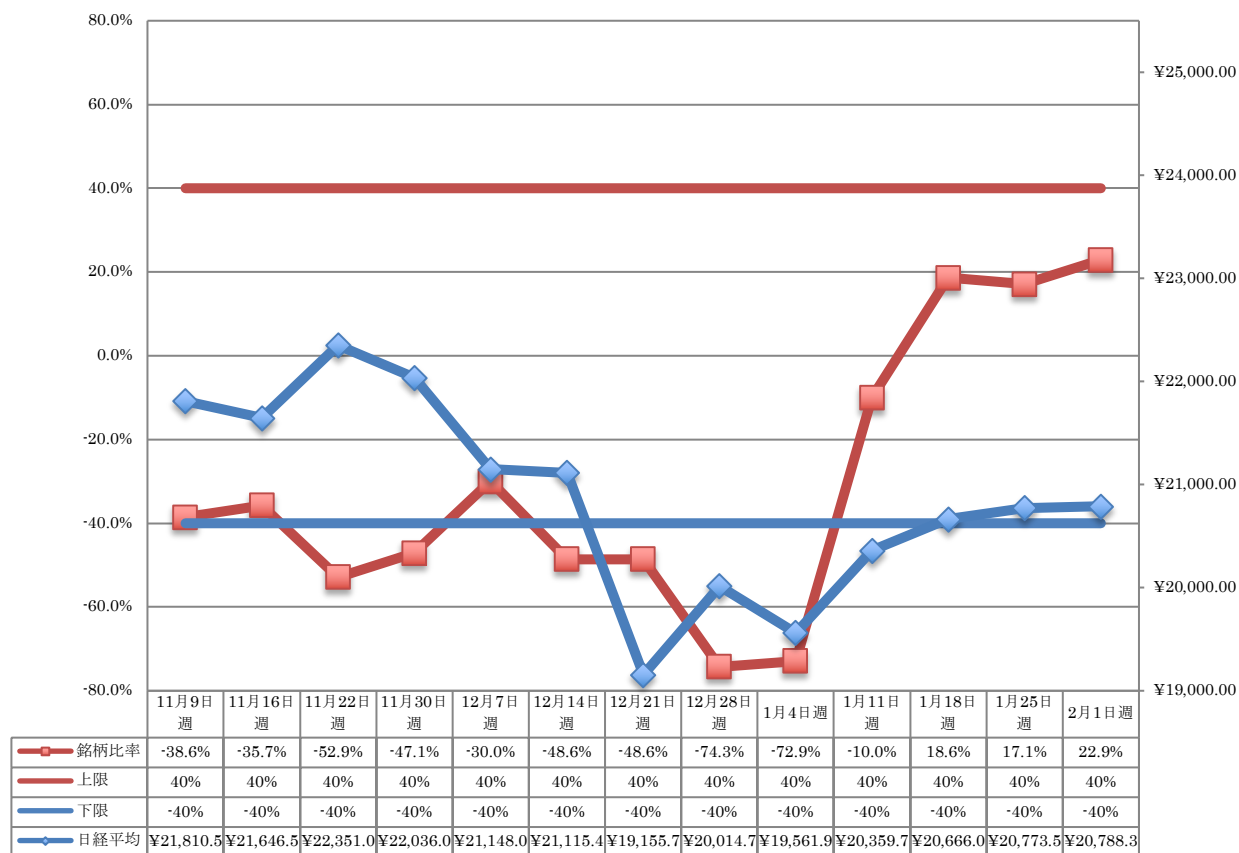


	1月18日週	1月25日週	2月1日週	2月8日週
上値上	¥124.87	¥126.68	¥126.57	¥127.28
上値下	¥123.64	¥125.43	¥125.32	¥126.02
下値上	¥122.04	¥123.91	¥123.65	¥124.40
下値下	¥120.81	¥122.67	¥122.41	¥123.15
ドルユーロ	¥124.70	¥125.00	¥125.40	
高値	¥125.25	¥125.09	¥125.77	
安値	¥123.63	¥123.71	¥124.32	

■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。1月18日週は+18.6%と昨年10月5日週以来、15週間振りにプラス転換し、ようやく昨年10月からの暴落局面が一旦、終了したことを示唆していましたが、直近2月1日週+22.9%と更にプラス幅を拡大しています。日経平均は昨年10月2日に年初来高値を更新しましたが、その前の週である9月28日週+52.9%→10月5日週+42.9%と2週連続で上限ゾーンを上回りました。その後、10月12日週-17.1%とマイナス圏に陥って以来、14週連続マイナス圏に陥っていました。特に、12月28日週、1月4日週の2週連続で-70%超と16年2月以来のチャイナショックで下落して大底圏を形成した極めて希な水準まで下落していたのが、今回の異常さを示しています。今後の注目点は、同指標がこのまま+40%超の上限ゾーンまで上昇するのか、それともどこかで一服しながら少し時間をかけて最終的に上限ゾーンへと上昇するのかです。何故なら、今後の日経平均の戻り歩調の動きを左右するからです。ただ、いずれにしても同指標が+40%超の上限ゾーンまでは日経平均の戻り基調が継続するということであり、このような局面では押し目買いのスタンスが有効となります。

日経平均とT2レーティング比率



□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。